

六盤山、車道嶺間には、祁家大山、青嵐山等ありて、高山地帯を成形し、道路は總て狭長、且つ起伏少なき山背に通じ、此の地帯は氣候寒冷、土地礫确なるか故に斜面は緩なりと雖も、耕地住民共に多からず、其の谷地亦五百米突以下の幅員を有するに過ぎず。

車道嶺以西は次第に降下し、谷地も亦次第に開濶して、住民耕作地漸く多く、以て蘭州に達す。蘭州谷地は、南に五泉山、北に北塔山ありて、黄河其間を貫流し（幅約二百米突、蘭州の北門外に舟橋を架せり）。南北約一里、東西約三里に亘る長方形の一小平野を成す。

地質は依然黄土層其の大部分を占むるも、六盤山及同附近は、赤土に屬し、且つ多量の苛性曹達を含有して、粘力少なきか故に崩壊し易し。岩石は六盤山を中心し、綠泥片岩多く、間々礫岩層を混す。又黄河の沿岸には、花崗石の山上山麓に露出するを見たり。

沿道樹木尠く、唯々揚柳の處々路邊に連ると、部落の地に存在するを見るのみ聞く。蘭州以西には、若干の森林を有すと。